

# EMERGENCY WATCH

No. 102 Jun 2019



神戸こども初期急病センター

2019年5月  
受診者数  
2703人

## 疾患頻度

1. 急性上気道炎	775人
2. 感染性腸炎	516人
3. 気管支炎	225人
4. 喘息	192人
5. 咽頭炎	188人

4月5月と感染性胃腸炎が大流行しております。  
伝染性紅斑(りんご病)4月29名、5月11名とプチ流行中です。

入梅を間近にひかえ、落ち着かないお天気が続いていますね。今回は夏の時期にかけて流行する手足口病について取り上げたいと思います。

### Q1. 手足口病とは？

手足口病は、口の中や、手足などに水疱性の発疹が出る、ウイルスの感染によって起こる感染症です。主に夏に流行し、患者の約90%程度を5歳以下の子どもが占めています。

### Q2. 病原体は？

病気の原因となるウイルスは、主にコクサッキーウイルスA6、A16、エンテロウイルス71(EV71)で、コクサッキーウイルスA10などが原因になることもあります。

### Q3. 感染経路は？

感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染(便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染すること)が知られています。特に乳幼児では原因となるウイルスに感染した経験のない者の割合が高く、濃厚に接触する機会が多いため、注意が必要です。

### Q4. 症状は？

感染してから3~5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2~3mmの水疱性発疹がみられます。発熱は約3分の1にみられますが、あまり高くないことがほとんどで、通常高熱が続くことはありません。また、ほとんどの人は数日間のうちに治る病気です。

### Q5. 治療は？

手足口病に特効薬はなく、特別な治療方法はありません。発熱に対して解熱剤やクーリング(首の付け根や腋の下を冷やす)を行い、消化の良いものを食べ、水分をこまめに摂り、よく休むようにして下さい。

まれに髄膜炎や脳炎などの合併症が起こる場合があるため、高熱が2日以上続く、嘔吐する、頭を痛がる、視線が合わない、呼びかけに答えない、呼吸が速くて息苦しそう、水分が取れずにおしっこがでない、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診してください。

### Q6. 予防法は？

手洗いは流水と石けんで十分に行ってください。特におむつを交換する際には、排泄物を適切に処理し、しっかりと手洗いをして下さい。また、タオルの共用は避けるようにしましょう。

### Q7. 登園・登校基準は？

手足口病で休むべき期間は症状により変わってきます。特に決まった基準はありませんが、発熱や嘔吐があるとき、食事がとれないときは、休むようにして下さい。症状が回復した後なら登園(登校)して構いませんが、登園・登校の基準は園や学校によって異なるため、まずは園や学校に確認するようにして下さい。



# EMERGENCY WATCH



## 特別連載

## こどもの事故 part 3

暑くなってきましたね。冷たいものが美味しい季節です。今夏の気象予報では暑さは平年並みということですが、「平年並み」の意味をご存知でしょうか。今の平年並みの基準は1981年から2010年の平均値です。その30年の平均値から今年の夏の気温は $-0.1^{\circ}\text{C} \sim +0.3^{\circ}\text{C}$ の範囲内であるという予想です。地球温暖化といわれている昨今の環境の変化からは平年並みといっても暑いことには変わりないですよ。

暑い夏にはプールや海に行きたくなりますよね。暑い中での水遊びは楽しい思い出になりますし子どもたちもプールに行きたがるのではないのでしょうか。一方で毎年痛ましい水の事故は後を絶ちません。

平成28年はマリレジャーに伴う海浜事故が902件起こっています。夏→海・プールというイメージで今回は水の事故のお話にしましたが、ほとんどのこどもの水の事故は屋外ではなく屋内、浴槽でおこっています。



みなさんはこどもが溺れる時のイメージをどうお持ちでしょうか？水音をバシャバシャさせて必死で助けを求めるイメージを持っておられると思います。水音がするので溺れかけても周りのおとなが気づくはずだと思っておられるかもしれませんが、しかし、実はこどもは「静かに」溺れるのです。

私には二人の子供がいます。お恥ずかしい話ですが、長男を風呂で溺れさせかけたことがあります。1歳半の頃でした。こどもと一緒に風呂に入って私は洗い場で自分の頭を洗っていました。あたまのシャンプーを洗い流す前にこどもの様子を見ると、浴槽のふちをもってお湯のなかで立っていました。シャンプーを洗い流してふと見るとこどもが居ません！浴槽をのぞき込むとこどもはびっくりした顔で仰向けにお湯の中で沈んでいくところでした。口からは泡がポコポコとあがっていました。決してゴボゴボと泡を吹き出していませんでした。足を滑らせたようです。実に静かでした。びっくりした顔でこちらを見る我が子の顔は今でも覚えています。実に静かでした……。

風呂で溺れた子供の救急搬送を時々受けます。ほとんどのケースは保護者が目を離したすきに起きています。「静かだと思って風呂場を見に行くと沈んでいた。」とおっしゃることがほとんどです。

こどもがおぼれる時は静かなんですね。もう一つ付け加えると、浴槽でおこる水の事故は入浴中とは限りません。日本の入浴文化はため湯ですよね、そして世界にも有名な「MOTTAINAI」精神、残り湯を翌日洗濯に使うため浴槽には常に水が張っている状態になっていることが多いですよ。こどもは洗い桶やいすをよじ登り、浴槽に落ちて残り湯で溺れることもあります。



表り湯による溺水

こどもが小さいうちはお風呂は一緒に入る。どうしても浴室から出なければいけないときは浴室のドアを開けて監視できるようにするもしくは浴槽から出す。

残り湯を貯めておかない。もったいないと思われるかもしれませんがお子さんが小さいうちはそんな工夫をしてください。

また、海やプールでのレジャーでは浮き輪を過信して目を離さないことが大切です。レジャーはほぼ丸一日ですよ。目を離さないように！と言いたいところですがテンションのあがったこどもに付き合っ一日中監視することはできません。私は海で遊ぶときは釣具屋で売っていたライフジャケットをこどもに常につけさせていました。股の部分にもストラップがありこどもの力では外せないタイプでした。こどもには「潜れない」と文句を言われましたが、目を離したすきに沈まれるよりはましです。もちろんこのライフジャケットが100%の安全を保障してくれるものではありません。



こんなタイプ↑

こどもが水の近くにいる時、保護者は決して油断せず、「こどもは静かに溺れる」ことを知っておいてください。

